

国・地方連携会議ネットワークを活用した
男女共同参画推進事業

女性はもっと活躍できる！
～WEPsが変える仕事の未来～

報告：(特活)国連ウィメン日本協会
議員名：三輪 敦子

1. 開催趣旨・目的

- 本会がその理念と目的に賛同し、活動に関する啓発と支援をおこなっているUN Women(国連ウィメン)は、国連グローバル・コンパクトと共同で女性のエンパワーメント原則(WEPs)を策定し、その実施を推進してきた。
- 昨年度の共催事業「女性の活躍推進シンポジウム」では、WEPsについてのより詳しい情報や、成功事例を含む具体的な取り組みに対する関心が明らかになった。
- 今回は、(1)具体的な推進例と成功事例の共有を通じてWEPsに関するさらなる理解の浸透と、同時に、(2)新しい企業のあり方や働き方への展望をともに考える場の提供、(3)特に若い人たちに対し、女性が十分に能力を発揮し活躍できる労働環境や企業のあり方についての世界の潮流と展望について啓発する機会の提供を目的として事業をおこなった。

2. シンポジウムの概要

【日時】 2013年12月16日(金)13時～16時

【場所】 女性就業支援センターホール(港区)

【参加者数】 約200名

【プログラム】

第1部 基調講演

「男性リーダーと共にジェンダー平等を」

エリザベス・ブロデリック氏／オーストラリア連邦政府 性
差別担当コミッショナー

第2部 パネルディスカッション

「企業と仕事の未来～WEPsが日本企業を変える！」

パネリスト

石川康晴氏／株式会社クロスカンパニー代表取締役社長

國井秀子氏／芝浦工業大学学長補佐・大学院工学マネジメント研究科教授

横田響子氏／株式会社コラボラボ代表取締役

コーディネーター

岩田喜美枝氏／国連WEPsリーダーズグループメンバー
2011・12年度経済同友会人財育成・活用委員会副
委員長 (特活)国連ウィメン日本協会副理事長

3. 参加者からの意見

【基調講演】

- パワーのある男性からアクションを起こしてもらおうというのは、考えれば当たり前だが、はっと気づかされたようで心に残った。
- パワーを持つ男性と一緒に、強いメッセージを出していくことの重要性を感じた。
- 男女差別について頭で理解するだけでなく心で理解するという言葉に改めて納得するものがあった。一人一人の心に訴える事が大事ということに気付けて良かった。
- 男性リーダーからのメッセージは説得力があると感じた。動画は衝撃的だった。
- DVIについて、ビジネスと結びつけて話されたことが印象的だった。
- 自分の会社にも採り入れられる考え方に示唆をもらった。

【パネルディスカッション】

- それぞれの方の問題意識に共感でき、具体的な方法をいくつも知る事が出来た。具体的事例が大変参考になった。
- それぞれの立場から具体的な話が聞けたことにより、今後の取り組みが明確になった。
- 石川社長が言った「世の中、男女半々だから、女性管理職を50%にする」というのはなるほどと思った。経済界の20%というのは認識が甘いと思う。
- 改めて当社における女性管理取比率の目標設定、開示の重要性・必要性を認識した。
- 沢山の学びがあり、女性の登用を進める必要性の理由がわかった
- 業界や立場の違うリーダーが同じ目標に向かって社会を動かしている事を実感し、自分も何か出来る事を着実に実行していきたいと思った。

4. 事業を通して得た成果／効果

- シンポジウムの満足度を尋ねたアンケートでは、51.7%の方から「とても良かった」、43.8%の方から「良かった」という非常に高い評価をいただいた。
- シンポジウム参加前にWEPsについて知っていたかを尋ねたアンケートでは、「良く知っていた」24.7%に対し、「少しは知っていた」が18.0%、「名前だけは知っていた」が20.2%、「まったく知らなかった」が34.8%であった。本事業を通じてWEPsの広報に貢献できたことは大きな成果であったと考えている。
- 参加者から今後の情報提供に関する希望が高かったことを受け、事業開催後、メルマガ発行を始めた。メルマガには男女共同参画局のイベント情報も掲載しており、好評をいただいている。
- 「日本の経済界の方々の大会等でこのようなシンポジウムを企画してもらいたい」「多様性推進の具体的な効果を知りたい」等のコメントを今後の活動に活かしていきたいと考えている。